



破壊エア流量&リリース圧力調整ニードル付真空破壊制御弁  
真空破壊ユニット

# VSLF Series

●接続口径：φ4、φ6



## 特長

■真空破壊機構を備えた真空エジェクタ用の真空破壊ユニットです。

■真空エジェクタの真空特性をそのままに、真空破壊エアを制御します。

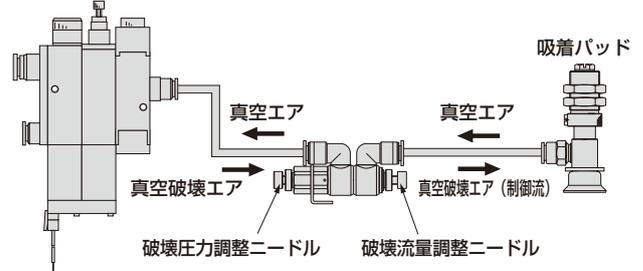
■真空破壊エアの流量制御に圧力制御をプラスし、ワークの吹き飛ばしを防止します。

■真空破壊回路にリリース機能（余分な圧力を逃がす機能）を設け真空破壊時間の短縮化を実現しました。

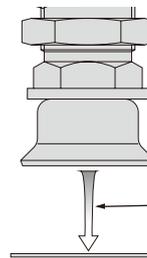
■真空破壊回路の末端に取り付ける事で、破壊時間を短縮する事が出来ます。

■樹脂本体部の回転と継手部の回転により、チューブの取出し方向が自由です。

真空エジェクタユニット



吸着パッド



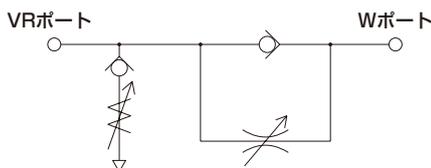
真空破壊エアの流量制御に圧力制御の機能をプラス

※真空破壊エアとは、真空状態を解除する為に流すエアのことです。

## 仕様

項目	VSLF
使用流体	空気
使用圧力 MPa	0~0.7
リリース弁作動圧力設定範囲 MPa	-0.015~0.015
真空圧力 kPa	0~-101
使用温度 °C	0~60（但し、凍結なきこと）

## 回路図



## 形番表示方法

●真空破壊ユニット

VSLF - 6 6A

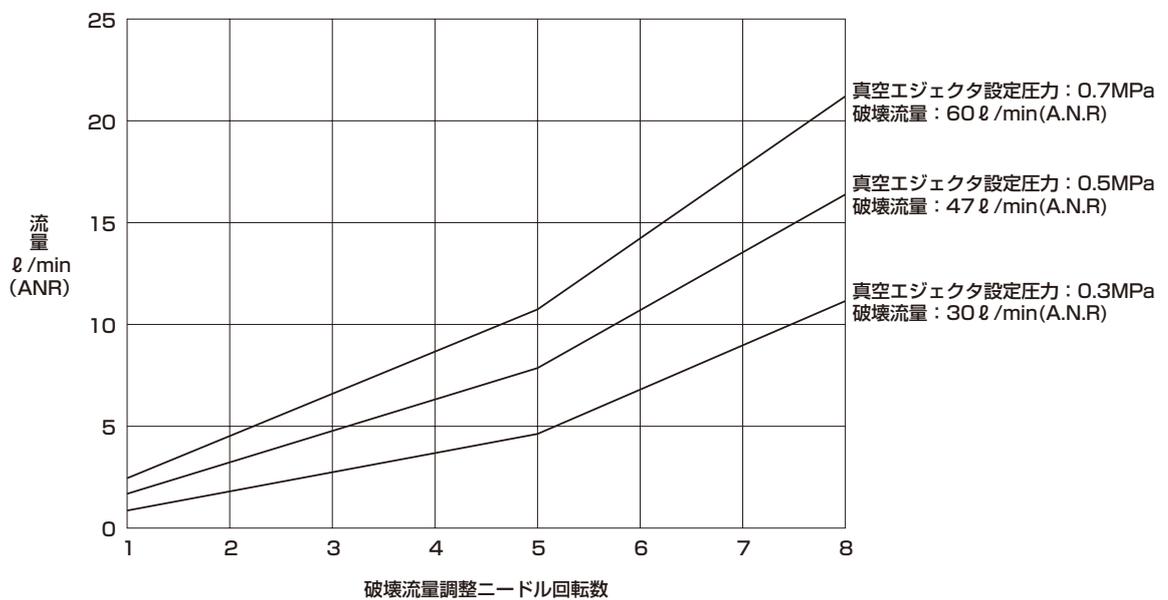
①真空側接続口径

②パッド側接続口径

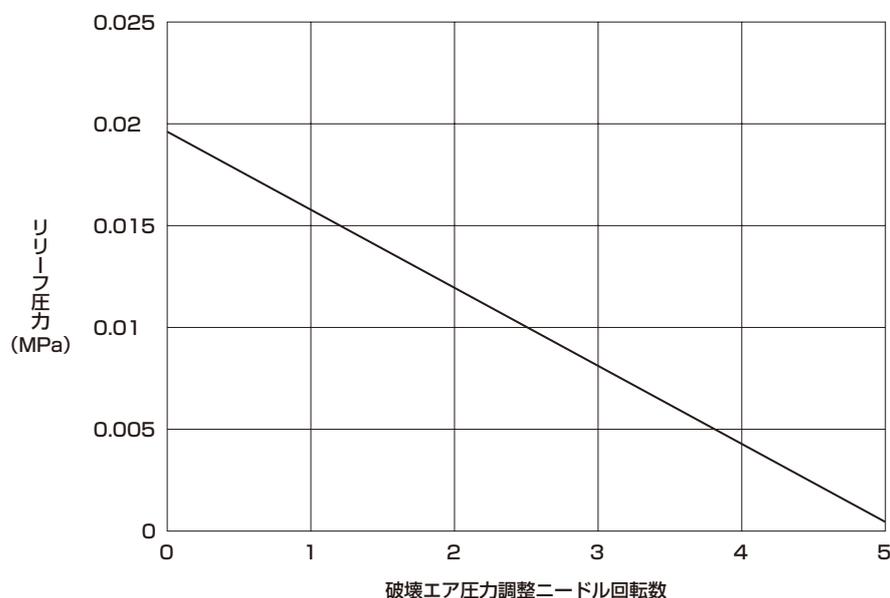
記号	内容		
<b>① 真空側接続口径</b>			
4	φ4ワンタッチ継手		
6	φ6ワンタッチ継手		
<b>② パッド側接続口径</b>			
		真空発生器側接続口径	
		4	6
4	φ4ワンタッチ継手	●	
6	φ6ワンタッチ継手		●
6A	R1/8	●	●

は製作不可です。

## 真空破壊エア吐出流量特性



## 真空破壊エア圧力特性



真空側接続口径

VSECV

VSRV

VSLF

VSEB-VSFU  
VSFJ

FSL

VSUS

VST



## 使用上の注意事項

## 警告

- 真空破壊ユニットには、エアの制御方向がありますので、本文を良く読んで確認してご使用ください。制御方向を間違えると人体への負傷、機器の破損の原因となる危険性があります。
- 空気以外の流体でのご使用はしないでください。空気以外の流体の使用につきましては、お問い合わせください。
- 本体に引張り、ねじり、曲げ等の負荷、及び落下、過大な衝撃を加えないようにしてください。本体の破損の原因となる危険性があります。
- ロックナットの締付は、工具を用いず手締めにて確実に締付けてください。工具を用いて締付けた場合は、ロックナット又は本体の破損の原因となる可能性があります。又、確実に締付けられていない場合は、ロックナットが緩み初期設定が狂う可能性があります。
- 真空エジェクタ、真空破壊ユニット間の内圧が、常時0.2MPa以上になるご使用はしないでください。真空エジェクタ破損の原因となります。

## 注意

- 真空破壊エア流量調整及び真空破壊エアリリーフ圧力調整は、本文を良く読んで理解してください。
- 配管抵抗が大きい場合又は、必要流量が多い場合には、ご注意ください。破壊流量不足によるトラブルの原因となる可能性があります。仕様をよく確認の上、使用してください。
- パッド側ポートに必ず真空フィルタを取付けてください（真空破壊用の正圧を印加しても良いフィルタに限る）。又、取付けない場合は、埃・塩分・鉄粉等をできる限り吸い込まないようにして、定期的に内部の洗浄を行ってください。

## 使用方法について

## 真空破壊ユニット調整方法

1. 始めに、VRポート（真空側ポート）を真空エジェクタ側に、Wポート（パッド側ポート）をパッド側に取付け、図の①のリリーフ圧力調整ニードルを全開に、②の破壊エア流量調整ニードルを全閉にする。
2. 真空エジェクタの真空を発生させ、図①のニードルを徐々に締め、真空度が立上がるようにし、真空の立ち上がり時間に遅れがないかどうか確認する。その後、繰返し真空を発生させ、問題無いようであれば、3.の設定に進む。
3. 真空エジェクタの破壊エアを発生させ、図②のニードルを徐々に開き、ワークに適切な破壊エアを設定する。

